

令和3年12月22日

校長講話

2学期の学校生活はいかがでしたか。感染症も小康状態となり、これまでに比べると落ち着いた毎日を過ごすことができたのではないのでしょうか。

しかし、海外を見るとまだ収束には程遠い状況です。国内でも、心配な情報が聞こえてきます。今は、感染症と向き合いながら、お互いに気をつけていきましょう。

さて、今日は「ヤングケアラー」についてのお話をします。ちょうど一週間前、15日に配った、「ヤングケアラーってなに？」という小冊子を出してください。

「ヤングケアラー」という言葉をよく聞くようになったのは、去年あたりからでしょうか。本来なら大人がすると考えられる家の仕事や、家族の世話、具体的には小冊子の2ページと3ページにあるようなことを普段から行っている、ちょうどみなさんくらいまでの年齢の人をいいます。

埼玉県内の高校2年生を対象に行った実態調査では、回答者の約25人に1人が、ここで言う「ヤングケアラー」であることが分かったそうです。割合だけで言うと、40人いれば一人か二人は、あてはまる人がいるのかもしれない、ということです。

私の周りにはそんな人いないよ、という人もいるでしょう。でも、お互いに相手の家のことまで詳しく知っているほどの友だちって、それほどはいないはずですよ。あなたが知らないだけ、ということのほうが多いのではないのでしょうか。

うちのことで、あるいは、家族のケアを自分がするのは当然だから、といった理由から、本当はつらいことや大変なことがあっても、他人には相談できない。実はそれが、「ヤングケアラー」の、大きな課題の一つです。

4ページにもあるように、自分の時間が取れなくなってしまうとか、他に誰もいないのですべて自分がやらなければならないとか、日頃から家族のケアを担っている人の中には、学校生活を送る上で大きな悩みを持つ人もいます。

そういった人たちのさまざまな思いが、5ページに寄せられています。これを読むと、勉強への負担や、ストレスで自分が倒れてしまった経験、将来への不安を抱えながら、学校生活を送っていることが伝わってきます。

特に気になるのは、「サポートして欲しかったこと」の中に、先生が「気にしてくれ」たことが「かえってプレッシャー」だった経験から、「そういう人たちへの関わり方を考えてほしい」、あるいは、「ケアをしている人の中には、『周りには言わないでくれ』という人も

いると思う」といった声があることです。

一方で、「周囲からの対応で嬉しかったこと」として、「不安や愚痴を聞いてくれて少し落ち着いた」という声があります。

このことから私が感じるのは、その人の話をよく聞くことが、まずは一番ということですね。こちらから一方的に、「大変だね」とか、「がんばって」とか声をかけることよりも、その人が話したいことを受け止め、聞くことのほうがよっぽど大切、ということですね。

実際、6ページを見ると、学校生活への影響があると答えた人の中で、「ケアについて話せる人がいなくて孤独を感じる」と答えた人が一番多いという結果が出ています。

さらに、その下を見てください。「ケアに関する悩みや不満を話せる相手」として、家族以外で最も多いのは「友人」という答えです。たとえば「進路の悩み」なら、少しは「先生」という答えも挙がりますが、ここではまったく見えません。家族のケアを担う人が、学校で悩みや不満を話すことができるのは、そして聞いてもらえると考えているのは、もっぱら友人、ということですね。

このことは、今日のお話の中で、みなさんに一番意識してほしいことです。8ページにもありますが、もし友だちからこういった相談を受けたら、まずはじっくり話を聞き、本人の思いを受け止めてください。

その上で、これは誰かの助けが必要だ、と感じたら、本人の考えを尊重しながら、信頼できる大人、先生はもちろん、10ページ、11ページに紹介されているような窓口にぜひ相談するよう、背中を押してあげてください。

ここまでの話を聞いて、自分がヤングケアラーだったことに改めて気が付いた、という人がいるかもしれません。遠慮しないで、助けて、と誰かに話しかけてください。家族には話しづらいことが、友だちや信頼できる大人にはかえって話しやすいこともあります。

生きるということは、毎日の悩みや不安と、上手に付き合っていくことです。上手に付き合うコツは、すべてを自分一人だけで抱え込まないことです。遠慮しないで、「助けて」という声をあげていいのです。

誰もが「助けて」と言いやすい環境は、どんなに小さな声でも、「助けて」という声が隣から聞こえてきたら、他人ごとと思わずに、「どうしたの」と声をかけてみることから始まります。話を聞くことが、一番の解決策。そう考えてみてください。

最後にもう一つ。信頼できる大人というのは、顔の見える大人、どこの誰であるか、はっきりしている大人、ということをお話しておきます。

悩み事を、SNSやネットで知り合った大人に相談するという人もいます。相手の大人は話をよく聞いてくれて、自分もそれで救われたし、特にその後事件に巻き込まれるようなことはなかった。だから安心。そんな話も聞きます。でも、そういう話はネット上の作り話か、さもなければたまたま運がよかっただけ、と私は考えます。

現実の世界もそうですが、特にSNSやネットの世界には、悩みを抱えた若者を食い物にしようとする大人がたくさんいます。そういう大人の被害に、みなさんには絶対に遭ってほしくない。

ただ、SNSやネットにすがりたくなる気持ちも、私は理解できます。誰にも相談できなければ、手軽なスマホという道具を使いたくなるのは当たり前です。

さきほどお話した、誰もが「助けて」と言いやすい環境を作ることは、お互いSNSやネットにすがりたくなる気持ちにさせない環境を作る、という点でも、ぜひみなさんに考えてほしいことなのです。安心して暮らせる環境は、私たち一人ひとりの意識にもかかっています。

最初にもお話したとおり、感染症についてはまだ当分、用心が必要です。その点、十分に踏まえて、年末年始を楽しく、健康に過ごしてください。

では、1月11日に、またみんなで会いましょう。私の話は、以上です。